抜粋版

# バスケットボールプラザ

Basketball Plaza

No:17



2002年4月

日本バスケットボール振興会





# あの人が、そしてみんなが、今日も生茶を飲んでいる。をあわせもった、生茶葉のうまみのおかげでしょうか。生茶のおいしさが全国に広がっています。コクとすっきり

# 飲んでながっている。

# 目 次

| 0 | 平成14年春李理事会報告概要 ・・・・・・・・・                                   | • • • | • • • • | •   | • • | l  |
|---|--|-------|---------|-----|-----|----|
| 0 | 観戦記<br>第32回全国高校選抜優勝大会 ・・・・・・・・・                            | 壁谷    | 道明      | •   |     | 8  |
|   | 全日本総合選手権大会男女決勝戦 ・・・・・・・                                    | 黒川    | 敏雄      | •   |     | 9  |
|   | 全日本総合選手権大会男子 ・・・・・・・・・                                     | 都崎    | 修男      | •   |     | 11 |
|   | スーパーリーグファイナル ・・・・・・・・                                      | 坂本    | 博       | •   |     | 12 |
| 0 | 特集<br>笛の世界・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・             | 広報部   | ・ 会都    |     | ٠   | 14 |
| 0 | 風神雷神<br>準決勝観戦雑感 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・       | 黒板    | 行二・     | •   |     | 26 |
| 0 | わが軌跡<br>スポーツにはロマンがある ・・・・・・・・・・                            | 阿部    | 進・      | •   |     | 28 |
|   | バスケット自分史 ・・・・・・・・・・・・・                                     | 浅田    | 幸生      | •   | • • | 30 |
| 0 | 会員だより<br>B.B50周年が過ぎた今 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ | 山本    | 嘉宏      | •   |     | 32 |
|   | 入会の動機とミニバス指導者としての心構え ・・                                    | 宍戸    | 進       | •   |     | 33 |
|   | 21世紀バスケットボール体型 ・・・・・・・                                     | 川嵜    | 純       | •   | • • | 34 |
| 0 | 牧山名誉会長を偲んで ・・・・・・・・・・・                                     | 富士    | 秀雄      | •   | • • | 35 |
| 0 | 牧山名誉会長を偲ぶ・・・・・・・・・・・・                                      | 大塚    | 周一      |     |     | 36 |
| 0 | <b>訃報・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・</b>              |       | • • •   |     | • • | 38 |
| 0 | 馬渡先生を偲ぶ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・               | 内田    | 辰雄 ·    | • • |     | 38 |
| 0 | 中井 宗康さんの思い出・・・・・・・・・・                                      | 中瀬    | 達雄      |     |     | 40 |
| 0 | 事務局だより・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・                 |       |         |     |     | 42 |

# 第32回全国高校選抜優勝大会 男子準決勝



### 能代工業(秋田)対洛南高(京都)

壁谷 道明

能代はセンター高久とシューター新井を中心に、ゾーンデイフェンスから速攻を武器として、インターハイに続き二冠を狙う。一方洛南は、2mのツインタワー竹内兄弟(双子)を擁し、高さの勝負ができるか注目の一戦となった。

洛南は宮崎国体の時、試合中に急死した、室 隼人選手の遺影をベンチに置き、選手も喪章を腕に試合に臨んだ。

能代工業 93 
$$\begin{pmatrix} 25 ----- 21 \\ 27 ----- 27 \\ 21 ----- 19 \\ 20 ------ 19 \end{pmatrix}$$
 86 洛南高

第1ピリオド、洛南は芳野がカットインして初得点、続いて菅の3ポイントで5対0とするも、なかなかツインタワーを有効に使うことができない。能代は新井の2本の3ポイントのほか山田、高野も良く走り、能代4点リードで終わる。

第2ピリオド、能代は新井の得点で順調なスタートをきるが、洛南も木村の3ポイントで追いすがる。しかしディフェンスリバウンドで負けて逆転することができない。残り1分洛南は木村の3ポイントで46対46の同点としたが、能代も山田の2本の3ポイントでリードを奪い、能代が52対48の4点リードで前半を終わる。

第3ピリオド、洛南は木村が好調を持続し、2分過ぎには洛南、竹内(公)のフリースローで57対57の同点に追いつく。5分には洛南、竹内(譲)のゴール下で逆転し、6分過ぎ能代、高久の3個目のファウルで洛南、竹内(譲)がフリースローを2本決め、62対65と3点リードする。しかし能代は新井が終了までに3本の3ポイントを決め再度リードを奪う。終了間際、能代、高久の4個目のファウルで洛南竹内(公)がフリースローを2本決めたが、能代が73対67とリードして終わる。

第4ピリオド、能代は新井、内海の3ポイントで79対69と10点差にする。洛南は能代のゾーンプレスに押され気味であったが、5分に能代、高久が5ファウルでアウトになるや、すかさず竹内(公)がポストを決めて73対81、更に芳野のインターセプトで80対85まで追い詰めたが、能代は残り50秒で新井が得点して差を7点として試合は決まった。

この試合で能代の新井は3ポイント8本を含む38得点をあげ、洛南の竹内兄弟の合計36得点を上回る活躍であった。洛南は竹内兄弟を擁しながら、4回のセンタージャンプのうち1回しかボールを取ることができず、今後の課題であろう。しかし竹内兄弟はまだ2年生であり、長身者でありながら器用な身のこなしは目を見張るものがある。来年どの様に成長してくるか大いに期待したい。

[振興会常任理事]

# 全日本総合選手権大会

### 男女決勝戦



黒川 敏雄

今年も1月2日からオールジャパンが開幕し、13日女子、14日男子の決勝戦が行なわれ、ジャパンエナジーは連覇で11度目、アイシン精機は初優勝を飾って閉幕した。

### 女子決勝

ジャパンエナジー 
$$86\begin{pmatrix} 16 & --- & 18 \\ 17 & --- & 14 \\ 17 & --- & 14 \\ 36 & --- & 13 \end{pmatrix}$$
 59 シャンソン化粧品

13年連続となった2強の頂上決戦で、満員の観客が見守る中、ゲームは進んだ。 第3ピリオドまではお互いにミスが多く、日本最高レベルのゲームとしては意外 な感じがした。お互いにフリースローをはずし、パスミスを繰り返し、ロースコアの 展開であったが得点上では大接戦となり、場内は大いに沸いた。

第4ピリオドに入り、エナジーの速攻、3ポイントシュートが決まりだし、応戦 するシャンソンにはスタミナ切れが見られ、エナジーの流れを止められず、徐々に点 差は開きシャンソンの完敗となった。

エナジーの勝因をみると、失点を59点に抑えた強いディフェンス、10本差のリバウンド、シュート成功率で60%対42%と優位に攻めたところではなかろうか。

2強と云われて久しいが今日のゲームでは、エナジーの独走がしばらく続きそうな 予感がする内容であった。

### <参考>

両チームエースのフリースロー成績は、浜口2/5、永田3/9で今まで見たことがない低い確率であった。

### 男子決勝

アイシン精機 60 
$$\begin{pmatrix} 1 & 1 & --- & 4 \\ 1 & 8 & --- & 1 & 7 \\ 1 & 9 & --- & 1 & 3 \\ 1 & 2 & --- & 2 & 0 \end{pmatrix}$$
 54 ボッシュ

今年はコート上の外国人が1名と制限された大会であったため、日本へ帰化した外国人を擁する両チームが有利に勝ち進み、ともに初の決勝進出となった。

第1ピリオド今季限りで休部が決まっているボッシュの気合は、場内の観客にまで 伝わる程高ぶっていたが、これが空回りノーマークシュートまではずし、わずか4得 点に終わった。敗因はこの第1ピリオドにつきると思われる。

第2、第3ピリオドはお互いデイフェンスの良さを見せ合いながらも点差は縮まらず、アイシン余裕の展開であった。

最後まで粘るボッシュは、第4ピリオド猛烈に追い上げて2ゴール差とし、場内 を沸かせたが冷静なアイシンに逃げ切られた。

ロースコアながら内容的には、豪快なブロックショットあり、決定的な場面での ドライブインや外角シュートと迫力のある面白いゲームであった。

アイシンの勝因はリバウンドで12本差と強く、且つシュート成功率でも若干上 回っていたことであろう。

ボッシュチームは休部を前に最後まで健闘して好ゲームを見せていただき、本当 に有難うございました。

### <蛇足>

試合終了後、閉会式、表彰式が行なわれ本大会ベスト5が表彰されたが、対象者の 1人が革ジャンパーにマフラー姿で登場、コート上で表彰を受けていた。受賞者の服 装が決まっているわけではないが、せめて革ジャンパーとマフラーを脱いで欲しかっ った。なにか表彰式が軽んじられた感じがしたのは、私だけではなかったようだ。

[振興会監事]

## 全日本総合選手権大会男子



都崎 修男

今年のオールジャパンは学生陣が早々に敗退したものの準々決勝で東芝・トヨタの再々延長戦、アイシン・ボッシュの両新鋭が常連のいすぶ・東芝を破って決勝進出、アイシン精機の初優勝など見所がいろいろあった。しかし決勝戦でも空席が目立つなど今ひとつ盛り上がらぬままに幕を閉じた感である。

この原因の一つは外国人2人制をとるJBL勢が、オールジャパンについては同時 出場1人に制限されゴール下の激しい争い、外国人同士の高く早いパスからのダンク シュートなどが見られなかったことにより、迫力を欠いた点もあろう。一方、東芝の 篠原選手がベスト5に選ばれるなど、日本人長身選手に機会が与えられたというプラ ス面もあり、強化と普及両立の難しさを痛感させられた大会であった。

またリーグ戦途中にオールジャパンが入った結果、外国人2名が出場することを前提にしたJBLチームは攻守のシステムを修正する時間がなく、チームとしての動きがちぐはぐであったように見うけられた。攻守のシステムは主力選手を中心に組み立てられることが多く、外国人選手に頼る度合いの多いJBL勢にとっては、今回は力を出しきったゲームができたとは言えまい。

すでにJBLから日本協会に対しオールジャパンの開催時期についての要望が出ていると聞いたが、大会の時期を変更するか大会要項の統一を図るかして、チームがベストの状態で戦えるようにしないと、観客に失望を与えることになる恐れがあると思う。また日本人選手を中心にしてみても、まだまだ観客にアピールできる強化策があるように思われる。例えば3ポイントシュートの成功数を力の拮抗した準々決勝以後で見ると、1ゲームあたりチーム5本が最高で、決勝戦では両チーム合わせても4本しかない。今後国際ゲームに勝ちぬいていく力をつけるためには、外角選手のシュート確率向上は不可欠である。作戦上の問題はあるとしても、男子より体力が小さい女子のゲームの方が成功率が高いことをみると、問題視せざるを得ない。

24秒ルールに対応した戦略もこれからの課題であろう。松下のように取りあえず すばやい攻撃に特化したスピードアップを図っているところもあり、攻守のスピード アップ、激しいデイフェンスなど、ゲームを盛り上げる上からも更に真剣に取り組ん で欲しいものである。

最近ボッシュに続き名門いすゞが今期をもって廃部するというニュースを聞いたが、企業依存のスポーツはますます苦しくなることが予想される。

今年は小中学校に週休2日制が導入され、余暇の善用としての社会スポーツの重要性が叫ばれるようになった。

より多くのファンに喜ばれるバスケットボールを目指して支持層を増やし、社会スポーツの頂点としてのオールジャパンとなるよう、関係各位の一層のご努力とご尽力をお願いしたい。

[振興会副理事長]



# スーパーリーグファイナル 第2戦

坂本 博

3月14日に行なわれたファイナル第1戦(2戦先勝方式)は、トヨタ自動車が 前半大量リードで折り返したものの、終盤の第4ピリオドに入って、いすゞ自動車が 追いつく猛迫をみせ、トヨタは昨季ファイナルでの敗退を思わせるような展開になっ た。しかしここで好調のシューターF折茂が、執念のシュートで跳ね返して勝利をも ぎ取り、短期決戦での貴重な1勝をものにした。

1日おいて16日の第2戦の練習状況を見ると、トヨタは第1戦に勝ち精神的にも優位に立ったせいか全員が冷静に見うけられ、一方の今季限りで休部するいすぶからは、2連覇で有終の美を飾りたい執念が伝わって、外国人選手はいつもより緊張気味に写り、トヨタと同様に静かにアップしていた。

つめかけた5千人を越す観衆もさることながら、両チームの応援合戦は場内の大半がチームカラーに色分けされて盛り上がり、次第に熱をおびて広い代々木第1体育館もファイナル独特の異常な興奮で沸きかえり、第2戦のティップオフを待った。

試合が始まり、トヨタは立ち上がりから硬く、得意のリバウンドが取れず、シュートミスも重なって劣勢となり、第1ピリオドは得点も1桁の8点にとどまった。

いすゞも同様に硬さが目立ったが、わずかにインサイドが優勢であったため、1 0点差の18点止まりの得点であった。

第2ピリオド、トヨタはCオバノンがゴール下で攻守とも頑張りだして13点の活躍と、棟方をはじめ全員が勢いに乗り、速攻と3ポイントも決まりだして1点差まで追いついて前半を終わる。

第3ピリオド、トヨタの堅いディフェンスが奏して、いすゞの得点が止まりわずか6点に抑えられたが、トヨタは勢いが衰えず要所でバランスよく加点して行き、主 導権を保った。

第4ピリオド、いすゞは高橋の頑張りでじわじわと追いすがり、トヨタも控えの納谷らが多彩の働きで冷静に試合を運び、5点差リードの終盤となった。残り4分この日攻守ともに大活躍していたトヨタのCオバノンが競り合いで負傷退場し、外国人勢の数が3対1となってトヨタは大ピンチに立たされた。残り2分30秒で、いすゞ佐古の劇的な3ポイントシュートが決まり同点としたが、トヨタは交替した、小野のミドルシュートが決まって突き放し、残り13秒で折茂のフリースロー2本も成功して僅差で追撃をかわして勝利をものにした。

トヨタは勝負どころで納谷、小野、知花らの控え選手の活躍が目立ち、佐古と外国人勢3人(含む高橋)のいすぶより攻撃の幅が多彩で、小野監督の好采配によりチーム力の差を発揮し、外国人選手依存を軽減してベテランを起用し、揺るがない自信

で最後を締めくくった会心の勝利といえよう。

いすゞの休部ばかりが注目されたプレイオフ終盤戦であったが、今まで実績がないトヨタが、デイフェンス勝負のロースコアで宿敵を倒したチーム力は大きな財産となるであろうし、日本のバスケットボール界を取り巻く厳しい環境の中で、新たな牽引役としての期待を託したいものだ。

[振興会常任理事]

2年連続4回目

2年連続2回目

### ● JBLスーパーリーグ2001 アウォード (表彰)

折茂 武彦 (トヨタ自動車) 初 [MVP] 【ルーキー・オブ・ザ・イヤー】 渡邉 拓馬 (トヨタ自動車) 【コーチ・オブ・ザ・イヤー】 初 小野 秀二(トヨタ自動車) 【ベスト5】 佐古 賢一(いすゞ自動車) 7年連続7回目 PG (ポイント・ガード) 2年連続3回目 SG(シューティング・ガード) 後藤 正規(アイシン) 折茂 武彦 (トヨタ自動車) 2年連続4回目 SF (スモール・フォワード)

ブライアン・ヘンドリック

ルシアス・デービス (いすゞ自動車)

C (センター) フライアン・ヘンドリック (トヨタ自動車)

●東京運動記者クラブ 年間ベスト5

PF (パワー・フォワード)

佐古 賢一 (いすゞ自動車)2年連続7回目棟方 公寿 (トヨタ自動車)9年ぶり2回目後藤 正規 (アイシン)2年連続2回目

トム・クラインシュミット (ボッシュ) 初 チャールズ・オバノン (トヨタ自動車) 初



### 風神雷神

# 準決勝観戦雑感







バスケットボールを始めたのはもう50年も前のことになった。中、高、大学を通じてコートで汗を流し、時には涙も流して、すべての基礎となる体力も、またいわゆる人間形成も、多くはバスケットを通じてなされたとの思いが深い。時間の余裕ができた近年は全日本選手権トーナメントの準決勝観戦を欠かさないことにしている。

男女4試合だから、有難いことに 1 日で我が国の最高レベルのチームを8つも見られるのだ。

今年は1月12日の土曜日、この時期としては異常なくらいの暖かさで出足がよかったのか、代々木第2体育館は例年になく観客が多かった。まずは女子、ご存知のとおり2強時代が続いていて順当な結果。女子でいつも感心するのは外角シュートの正確さである。加えて今年は勝った在京チームの運動量が各段に向上したようであった。国際試合で身長では劣る日本チームが勝つには外角シュートと運動量に頼らなければならないので、心強いことだ。もう一つの勝ったチームは選手の交代期かと思われるところがあった。

男子はスーパーリーグとは違う、"コート上外国籍選手1名の制限"がどう影響したのだろうか。外国育ちで日本国籍選手の活躍如何が勝敗の鍵を握る、との解説が多かったが、1人を除いてさほどでもなかったのはどうしたことか。率直に言ってこの日は少々緊迫感に欠ける2試合ではなかったか。トーナメント戦の全日本総合では一戦必勝の気迫を期待しているのだが、各チームや選手の気持ちがスーパーリーグの方にいっているのでなければよいがと思ったのである。また準決勝当日の朝のある全国紙に某外国人監督の談話が載っていて、日本人にはもっと闘争心が必要とあったが、プレーでこれを見ろと跳ね返してもらいたいものだ。

聞くところによるとバスケットは小学校、中学校では結構やるのだが、高校、大学と進むとだんだんにさほどでなくなるらしい。なんとしても注目を集めてもらいたいものだが、一番いいのは少なくとも国際大会の本戦に出場できるくらい強くなること、そのためには外国育ちの日本国籍選手も当面は歓迎だ。小柄な純正日本人選手が長身の外国チームを相手に予測不能なパスや正確な外角シュートで縦横の活躍をするのは夢だが、巨大な選手がその通りのことをしてみせるNBAのテレビ放映を見てしまうと、世界では夢のまた夢であろう。しかし少なくともアジア地域ではこうあって欲しい。

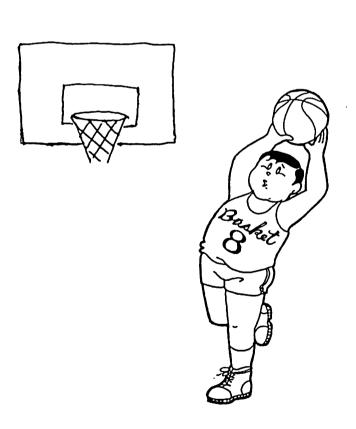
さて、強くなりさえすればそれだけでいいのだろうか。今年のサッカーはW杯で

大人気である。日本は主催国としての出場ではあるが、国際試合でなかなかやるよう になったことが人気のベースにある。

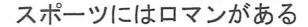
先日サッカー界の中心人物の講演を聴く機会があった。「若い頃ヨーロッパに遠征してびっくりしたが、どの町にもスポーツクラブがあって芝生張りのグランドで子供の頃から走り回り、大人も子供もボールで遊んでいる。今Jリーグを頂点に盛り上げているが、芝生張りのグランドを持ったスポーツクラブをどの町にも作り、子供の頃から遊べるようにすること」、これがサッカー連盟の基本理念だというのである。なんでも理念がしっかりしている組織が一番強い。

バスケットではこの辺りはどうなのであろうか。体育館はどこにもあるので、例えばバスケットを通じてすべての子供に身体を動かして、チーム活動をすることの面白さを体験させるのも有力な方向であろう。とすればそれをもっと徹底すること。実情にいささか疎いので見当違いでなければ幸いだが、サッカーでやっているように子供達を集めて遊ばせる若い人達を大勢作って組織し、少なくとも全国の小、中学校全部にチームを作ること。もっと大事なのは各地に良い指導者を用意することであろう。

[振興会副会長]



# わが軌跡





阿部 進

昭和20年8月15日の終戦の放送をラジオで聞いたのは、母の先祖のお墓参りの後だった。

その年の4月から、新潟県立新潟中学の1年生になっていた。戦争中の運動部は剣道部 柔道部位しか実際の活動をしていなかった。私は上級生から半ば強制的に柔道部に勧誘さ れ連日厳しい練習に明け暮れた。当時は海軍兵学校への入校を夢見る少年でもあった。

9月になって2学期が始まると、それまで勤労動員で工場で働いていたり、軍隊の学校に行っていた上級生が、終戦で続々と復校してきて、学校が俄かに賑やかになった。当時の校長先生は学校スポーツの振興に特に力を入れ、荒んだ生徒の気持ちをスポーツで発散させる方針をとった。明治25年開校の歴史が多くの種類の運動部を復活させた。

長兄が新潟医大で陸上競技をやっており、昭和22年、中央大学の仁田脇 功選手とは 100mの日本選手権を10秒6~7で争っていた仲だったので、陸上競技を目指すのが 自然の成り行きだった。この兄から「個人競技よりチームスポーツの方が良いのではない か」とのサゼッションがあり、二度の全国優勝をしている伝統ある「篭球部」に入部した。

私のバスケットボールとの出会いはここから始まった。この新潟中学が学制改革で新制の新潟高校になり、ここで6年間同じ仲間と過ごしバスケットボールに熱中した。

戦後初のオールジャパンは新潟倶楽部が優勝し、次の年、新潟市の白山小学校の体育館でオールジャパンが開催された。得点掲示係りをしながら私の心に一流選手のプレーが深く刻み込まれた。一球会が徹底的ディレードオフェンス(10点をやっと越す攻防)で神戸学士倶楽部と戦った、歴史に残る知的な一戦は今でもはっきりと思い出される。

日本のバスケットを変えたといわれる、ハワイの来日チームが新潟にも来るとのことで、 当時の新潟倶楽部に高校生ながら入れていただいたが、残念ながら新潟でのゲームは実現 しなかった。小田監督(早大〇B)のもと、八谷さん、吉井さん、市嶋さん(文理大〇B)、 高橋実・高橋修さん兄弟(NKK)、真壁さん(東大〇B)などの方々と一緒に練習させ ていただいたのは貴重な体験だった。

当時の新潟高校のコーチは、病気療養のため帰郷中の立大出身の全日本プレーヤーだった、笠原さんで、ハーフコートプレスやローリングオフェンスなどを取り入れ、新潟で新風を巻き起こした。今泉、泉さんを擁する北越商業との国体県大会決勝の最後での逆転負けは、今思い起こしても残念である。

篭球王国といわれた新潟での中学、高校時代は恵まれた環境でバスケットボールに専念できた。現在のJBL新潟大会で、観客からのバスケットに対する鋭い視線と熱い声援を感じとれるのは私の独りよがりだろうか。この雰囲気が、今度スーパーリーグに昇格する「新潟アルビレックス」への県民の応援にも引き継がれていくと私は思う。

早大へ進学して、今日本協会で活躍している、下間君と一緒になった。東京での大学時代は下宿生活で食べ物に苦労した。理工学部での実験と練習との時間調整に悩んだが、友達に助けられて続けることができた。振り返ってみると、もっとバスケットに徹底すべき

だったとの反省も心の何処かにあり、それがその後のバスケットに対する熱い思いにつながっているように思う。

実業団では立大の、紺野さんと共に当時の強豪鉄興社に入り、1年間、実業団でのバスケット生活を満喫した。榎元さん、丸山さん、石本さん、そして藤田さんら早大の諸先輩や、慶大出身の喜多さん、日大出身の長瀬さん、寺山さんらと試合に練習に楽しい思い出を共有した。

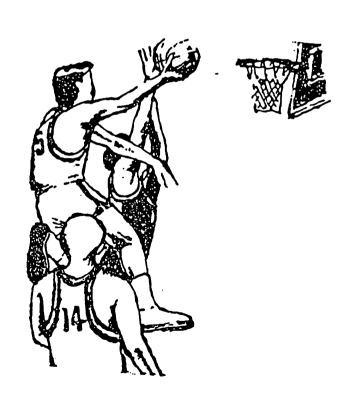
当時これからの日本のエネルギーは「原子力」だということで、何とかこの開発に携わりたいとの一念から、大学院に戻る決心をした。若さがロマンを追いかけるのは何時の時代も変わらないのだろう。

その後この分野の関係で東芝に入り、現在は東芝バスケットボール部の社内支援の雰囲 気作りに努力しているつもりである。

スポーツには青春の時期に全てを犠牲にしても身をぶつけることに値する「ロマン」があり、そこに凝縮された人生がある。「たかがスポーツ、されどスポーツ」である。

スポーツ選手は人生を2回経験することができるといわれる。1回は能力の限界を極める「スポーツ人生」、もう1回は自分の特徴を生かして社会に貢献する「社会に役立つ人生」である。

バスケット界の強化と活性化が叫ばれて長い。私はまず、大学バスケット界の充実がその基盤になると思う。多くの観客が感動するゲームは、日頃の鍛錬の成果を十分かもしだす雰囲気が重要で、関係者一同で協力して作り上げることが肝要と思う今日この頃である。 [振興会常任顧問]



# 唯一の公式試合球



国際バスケットボール連盟 主催国際大会



アジアバスケットボール連盟 主催大会

バスケットボール 日本リーグ機構主催大会



バスケットボール女子 日本リーグ機構主催大会



○貼り○天然皮革○7号球○ワイドチャネル



闘う者に、ベスト・エキップメント。

東京本社 〒130-0003 東京都嶽田区横川5丁目5-7 大阪・名古屋・広島・福岡・四国・仙台・札幌・リノUSA・デュッセルドルフG

# PLAY ITALIAN





